

◎ シリーズ 長岡京歴史散歩

124

長九小学校区の遺物
— 小学校から出土した井筒 —

今回紹介する長岡京時代の井筒は、井戸に水を溜めるための木枠で、長岡第九小学校の建設工事に伴う発掘調査で見つかりました。

井戸は一辺が1・9^尺、深さ3^尺以上の大きな穴を掘り、穴の底に敷いた礫の上にこの井筒を据え置いています。また、井筒の上には薄い縦板を角材で留めた井戸枠が作られたと想像できます。

井筒は大木の内側を削り抜いたとても珍しいものです。高さは1・8^尺、直径が0・6^尺もあり、表面に残された手斧の跡が削り抜き作業の大変さを偲ばせます。井筒の下には長方形の切り欠きが設けられており、この穴が取水口の役目を果たしたと考えられます。

長岡京跡ではこれまでに140基以上の井戸が発見されています。しかし、大木を削り抜いた井



▲長九小の井戸復元模式図（上が地面。井戸を真ん中から割った図）

▶現在センターに展示中の井筒



筒を用いる例は二例しか見つかっていません。井筒が発見された場所は現在プール施設となっていますが、井筒は、保存処理が施され埋文センターで展示されています。